

9月18日はかい割れダイコンの日

シニア野菜ソムリエ●KAORU

9月18日は「かい割れダイコンの日」です。健康野菜であるかい割れダイコンに親しんでもらおうと1986年に制定されました。9月はこの日を制定した会合が行われた月であり、18日は8を横にして下に1を付けるとかい割れダイコンに見えるということがその由来といわれています。

ピリツとした爽やかな辛味と清涼感のある風味が料理のアクセントとして重宝されているかい割れダイコンは、発芽直後のダイコンの新芽を食用とした物。実は日本オリジナルのスプラウト（発芽野菜）で、意外にも平安時代から食べられていたようです。当時は貴族が食す高級食材だったようですが、現在は日常の食卓で楽しめる身近な食材になりました。通年手に入り、調理も簡単で使いやすいことも魅力。少量でも存在感が強く、和食や洋食、中華などさまざまな料理を彩ってくれます。

近年注目されているのが、その栄養価の高さ。植物が発芽し成長を始める

と、乾燥した種子の状態では存在しなかった成分や微量だった栄養素が合成されます。植物の赤ちゃんともいえるスプラウトは、その小さな姿にこれから大きく成長するために必要な栄養を豊富に含有し、生きるパワーを秘めている状態なのです。種や成熟した野菜よりも多くのビタミンやミネラル、機能性成分を手軽に摂取できることから、天然のサプリメントとも呼ばれています。

加熱によるビタミンの損失を防ぐためには生食が向いています。温かい料理に生のままトッピングすると、適度にかさが減ってたっぷり食べられるのでお勧め。炒めたり、煮込んだりするよりもビタミンの損失量も少なくて済みます。ラーメンやパスタなどの麺類に、また寒くなる季節はお鍋の仕上げに一面に散らすと野菜不足の解消に。ピザやステーキの上にたっぷり載せると、消化を助けてさっぱりいただけます。



農報

花卉

竹川 慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637



スリップス（アザミウマ）について

花卉



今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリップス(ミカンキイロアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ)について紹介します。

ミカンキイロアザミウマ(主に花・蕾に寄生)

虫は体長1.0～1.7mm。黄色黒褐色。

ミナミキイロアザミウマ(主に葉に寄生)

成虫は体長1.3mm前後、全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

・生理生態

卵～成虫までの期間は10～20日

成虫の寿命は30～40日

成虫の1匹の雌は150～300個を産卵し、1ヶ月後に300倍に増殖します。

蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。

休眠しないので、施設内では冬でも発生します。

施設では2月下旬から増加し始め、5～6月に最も活発に活動し、初夏～初秋に大量に増加します。

成虫の飛翔能力は低く、自力で5m程度しか移動できません。

・被害の特徴

- ・新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

- ・展開葉に寄生した場合、加害部が白く光ったように見え、周辺に小さく茶～黄色の虫が見られます。
- ・蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

・防除対策
耕種の防除

- ・施設内では、作付前に除草を行い、ハウスは閉め切り、次の作付けまで20日以上あけ、成虫を餓死させます。
- ・本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。
- ・株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうか確認します。
- ・黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意します。
- ・木酢液を噴霧することで、スリップスを忌避する効果があります。
- ・砂糖を200倍～500倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

薬剤防除

- ・薬剤防除については、スリップスの種類や葉害等がありますのでお近くの営農センターまでお問い合わせ下さい。

